



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	東京学芸大学地理学会会則および『学芸地理』投稿規定 ・執筆要領(学会記事)(fulltext)
Author(s)	
Citation	学芸地理(71): 132-139
Issue Date	2016-02-18
URL	http://hdl.handle.net/2309/145226
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

東京学芸大学地理学会会則

第1条 本会は東京学芸大学地理学会と称する。

第2条

1. 本会は地理学および地理教育の研究発展をもって目的とする。
2. 本会の事務局は東京学芸大学地理学研究室におく。

第3条 本会は前条の目的達成の為、次の事業を行うことができる。

1. 例会、研究発表会、講演会、討論会、その他
2. 巡検、共同調査、その他
3. 機関誌「学芸地理」その他の発行
4. その他

第4条

本会は第2条に示す本会の趣旨に賛同する者を会員として構成され、最高議決機関として総会を設置する。

入退会については別にこれを定める。

また本会会員に、一般会員・名誉会員・学生会員の種別を設けることができる。名誉会員・学生会員については別にこれを定める。

第5条 会員は本会則および総会の決定に従わなければならない。また、会員は以下に示す各事項について優先的にその便宜を受けることができる。

1. 第3条第1項に示す各事業における報告および参加
2. 第3条第2項に示す各事業への参加
3. 第3条第3項に示す刊行物の受領
4. その他、学会からの通信事務

第6条 本会は会員の互選により会長1名を選出し、会長の任命により、会員の中から副会長1名、委員長1名、委員若干名、会計監査2名の役員をおく。会長の任命による役員は、総会による承認を受ける。役員の任期は承認を受けた総会から次年度総会までとする。また、会長の発議により、前項に定める役員の他に特別委員会を設置できる。特別委員会の名称、特別委員の任命・任期については別にこれを定める。

第7条 会長は総会を招集する他、本会の一切の責任を負い、副会長はこれを補佐する。

第8条 総会は年1回の定期総会を開き、本会の事業、運営全般にわたり審議する。また、会長および委員長が必要と認めた時、あるいは全会員の20分の1以上の要請によって臨時総会を開くことができる。

第9条 総会は委任状を含めて全会員の10分の1以上をもって成立し、決定は出席者の多数決による。

第10条 委員は委員長と共に委員会を構成し、必要に応じて副委員長1名を互選する。

第11条 委員会は会長・委員長の必要に応じて招集される。

第12条 委員会は、本会の円滑な運営に必要な事項を協議し実務一切に当たる。

第13条 委員は協議により、総務・会計・編集、その他必要に応じた職務を分掌する。

第14条 総務委員は本会の運営事務全般に亘りこれを総括する。

第15条 会計委員は本会運営に必要な会計業務一切にあたり、備品管理を兼任する。また、年度の決算は総会において報告しなければならない。

第16条 編集委員は機関誌およびその他の出版物の発行にあたる。本業務については総会に報告しなければならない。

第17条 総会において決定囑託された会計監査は、本会の運営に必要な業務会計について監査し、総会に報告しなければならない。

第18条 本会事業に必要な経費は、会費その他の収入をもってこれにあてる。年度の予算は総会の承認を得なければならない。

会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 会費については、別にこれを定めるが、改正変更にあたっては総会の承認を得なければならない。

第20条 本会会員は所定の会費を納めなければならないが、これに反する場合の処置については別にこれを定める。

第21条 本会則は総会において承認の日（平成15年5月25日）より発効するが、改正は総会において行う。

『学芸地理』 投稿規程・執筆要領(2013年12月一部改訂)

『学芸地理』（THE JOURNAL of GEOGRAPHY THE GAKUGEI-CHIRI）は、東京学芸大学地理学会（以下、本学会と称す）の機関誌で、原則として年1回発行する。学芸地理は本学会の目的にふさわしい論文等のほか、書評、ニュース、学会員に対する情報提供のための記事を掲載するものである。

《投稿規程》

学芸地理に記載される原稿は、上記の趣旨にふさわしい内容を備えた未発表のものに限る。ただし、部内の技術資料等で、部外配布数の僅少な刊行物にのみ掲載された原稿については、学芸地理にふさわしく書き直すとともに内容が重複する旨を本文中に明記すれば、投稿することができる。本誌の投稿原稿は、原則として本学会会員に限る。連名で投稿する場合は、少なくとも本学会の会員が1名含まれていることとする。ただし、編集委員会が依頼した原稿についてはこの限りではない。

1. 投稿原稿の審査および採否の決定

編集委員会は、投稿された原稿が本投稿規程の定める原稿の条件に照らしてふさわしい内容か否かを審査し、掲載の可否を決定する。その際、論説（Original Article）、展望（Review）、研究ノート（Research Note）、授業実践報告（Practice Record）、資料および討論（Data and Discussion）、書評（Book Review）と、編集委員会の企画に基づく、特集（Edition）の原稿については、複数の査

読者による査読結果をもとに編集委員会が掲載の採否を決定する。

編集委員会は、査読者の意見その他の理由を明示し、期限を定めて原稿の修正を著者に求めることができる。また、編集委員会は、かな遣いなど軽微な点について、原稿を修正することができる。ただし、編集委員会の意見に異議申し立てがあれば、著者はその旨を申し述べることができる。

2. 原稿の種類

原稿の種類は、以下のとおりとする。

- 1) 論説：原稿の長短に関わらず、オリジナルな学術研究の成果をまとめたものとする。
- 2) 展望：既存研究の成果の検討、研究史、研究動向、将来の展望などについてまとめたものとする。
- 3) 研究ノート：オリジナルな学術研究の中間報告や予報、新しい手法の提案などとする。
- 4) 授業実践報告：地理教育や社会科教育の参考となる授業実践報告をまとめたものとする。
- 5) フォーラム：地理学・地理教育や本学会の発展に資する意見・要望などとする。
- 6) 資料：地理教育や社会科教育、地理学および諸関連分野における資料的価値のある情報とする。
- 7) 討論：学芸地理に掲載された論説などに対する批判・質問および筆者からの反論・回答とする。
- 8) 書評：地理教育や社会科教育、地理学および関連諸分野の新刊書等を紹介・批評したもの。ただし、評者の立場から内容を検討し、評者の意見を吟味して論評したものとする。
- 9) 研究要旨：臨地研究要旨、卒業論文要旨、修士論文要旨。
- 10) その他：特集号における巻頭言、ゼミ巡検や紹介記事など。
- 11) 学会記事など：学会巡検、総会や定期大会における特別講演・研究発表要旨、総会の記録。

3. 原稿の作成と長さ等

- 1) 図・表・写真、欧文要旨などを含めた、原稿の長さは刷り上がりにおいて以下のとおりとする。

原稿の種類	刷り上がりページ制限	刷り上がり字詰め	原稿の字詰め	原稿枚数
1) 論説	20ページ以内	21字×37行×2段	21字×37行	40枚
2) 展望	20ページ以内	同上	同上	40枚
3) 研究ノート	15ページ以内	同上	同上	30枚
4) 授業実践報告	20ページ以内	同上	同上	40枚
5) フォーラム	15ページ以内	同上	同上	30枚
6) 資料	4ページ以内	同上	同上	8枚
7) 討論	4ページ以内	同上	同上	8枚
8) 書評	4ページ以内	同上	同上	8枚

- 2) 原稿は、表題、本文、謝辞、注、参考文献、欧文要旨（付す場合）、図・表・写真、図・表・写真キャプションの順にまとめ、本文から参考文献まで通しページを付すこと。

4. 著作権

学芸地理誌上のすべての記事の著作権および編集出版権は、本学会に帰属するものとする。本文の一部分や図・表・写真などを他の著作物から転載する場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、著者自身があらかじめ処理しておくこと。

5. 原稿の提出

- 1) 原稿と図・表・写真などのコピー2部に、論説・展望・研究ノート・授業実践報告・フォーラム・資料および討論の原稿については、図・表・写真などを含めた原稿の仮割付けしたレイアウト見本1部を添えること。
- 2) 原稿は、本学会所定の原稿送付状とともに、編集委員会（〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学地理学研究室内）宛に提出すること。

6. 原稿送付状

- 1) 日本人などの著者名のローマ字表記は、TSUBAKI Machiko のように姓を先とし、姓はすべて大文字で記す。
- 2) 表題部における論説などの著者の所属は、基本的に掲載時の所属期間・組織名などを記すこと。なお、東京学芸大学地理学分野の卒業生は、学期・院期も記すこと。
- 3) 論説・展望・研究ノート・授業実践報告・資料には日本語と英語のキーワード（欧文要旨があればその後）を付すこと。キーワードは5つ程度とし、論文の内容を明確に示す語を選ぶ。文献検索に利用されることも考慮して、著者の造語、一般性のない語、過度に長い複合的な語は用いない。

7. 原稿の修正・校正

編集委員会は査読結果に基づき、本文・図表・欧文要旨などの修正・加筆を求めることができる。修正は投稿者の書き直しを原則とする。

掲載決定の通知後には、修正した原稿（図・表・写真などを含む）を1部と、原稿データ（テキストファイルで保存したもの）や図・表・写真などのオリジナル（コンピュータで作成した場合には、そのファイル）を保存したCD-ROM ディスク（USB メモリースティックでも可）を編集委員会へ提出すること。

8. 別刷

論説、展望、研究ノート、授業実践報告、資料および討論については、著者の申し出にもとづき、著者用の別冊を作成する。受付部数は50部単位とし、代金は著者負担とする。

《執筆要領》

1. 原稿の作成

標題は、原稿1ページ目の上部に和文および英文の標題、その下に和文および英文の著者名を明記すること。原稿は、本文、謝辞・付記、注、参考文献、および著者の所属、必要があれば英文要旨の順番に並べること。連名の場合は、「・」をはさんで列記すること。書評の場合は、原稿の末尾に、投稿者名を括弧に入れて表す。原稿には頁番号を付すこと。

2. 章節項構成

論説，展望，研究ノート，授業実践報告，資料等の本文は，章・節・項から構成されるものとし，章はローマ数字「I，II，III，…」，節は全角数字「1.，2.，3.，…」，項は片カッコ付数字「1)，2)，3)，…」とし，タイトルの文字フォントは「MS ゴシック」とする。

3. 本文

- 1) 文字フォントは「MS明朝」とし，タイトル，本文，注，参考文献などは，A4 版白紙を縦に用いて，天地2.5cm，左右5cm 程度の余白と行間の余裕を十分にとり，21 字×37 行でプリントアウトする。
- 2) 句読点は，ピリオド「.」，カンマ「，」に統一し，全角文字（1マス）とする。
- 3) 人名や地名などの特別なもの以外は，常用漢字・新かな遣いを使用する。
- 4) 副詞はなるべくひらがなで書く。
- 5) 外国語・外来語にはカタカナを用い，学名・人名・学術用語には原語表記を併記すること。アルファベットなどの外国文字は，半角文字（2字で1マス）とする。外国語の表記名は，人名の姓と名を区別するような場合を除いて，みだりに「・」で分割しないようにする。複合的な姓を区切る必要がある場合は，「フィッシャー＝ディスカウ」のように「＝」を用いる。
- 6) 外国語文献からの直接引用は，日本語訳を原則とする。古い日本語文献からの直接引用は原典通りとするが，漢字はなるべく現行の日本語での一般的な字体を用いる。
- 7) 年号は西暦を使用する。その他の年号を使用する場合も西暦を併記する（例：1782 年または1872（天明2）年）。また，「天明年間」，「文化文政期」などのように年号による特定時期の表現が必要な場合には，なるべく初出の際に，対応する西暦を括弧書きで付記する。その際，「1810 年代」，「19 世紀初め」などの概略表現でも可。
- 8) 数量・数字・単位
 - ①数字（西暦を除く）はアラビア数字を用い，半角文字（1桁の数字は全角）とする。なお，3桁ごとにカンマ（例：1,000）を入れ，大きな数字は，「兆，億，万」などの漢字を使うこと（例：1億3,000 または1.3 億）。分数は，「2分の1」または「1/2」と書くこと。
 - ②緯度・経度は，「北緯42 度15 分」または，「42° 15' N」のように表記する。
 - ③2つの年次（年代）で期間を表すときには，「19」などを略さず（1980 年○ 80 年×），「1980～1990 年」，「1960 年代～ 1970 年代」のように表記する（「1980 年から2000 年」という表現に統一しても可）。
 - ④数量の記載には，原則としてMKS単位系（メートル法）に従い，1つの記号で単位を表すものは全角で，2文字以上の英字で表すものなどは半角で単位をつけること（例：m，g，%，℃などは全角。km，kg などは半角）。ただし，一般によく知られているもの（里，貫，石，町，反，マイル，パーレルなど）については，この限りではない。
- 9) 数式
 - ①数式は2行分以上取りとし，文字・数字・記号などの種類および大小や特殊な文字（イタリック，ボールド，ギリシャ文字など）の上添え・下添えなどが明瞭に区別できるようにすること。
 - ②各数式の後に，（1），（2），・・・のように通し番号を付けること。

- ③一つの量は一つの文字で表す.
 - ④数量・物理量を示す記号は、イタリックにする. 数式の添字も数量・物理量あるいは番号に対応する場合には、イタリックにする.
 - ⑤ベクトルはイタリックボードにする
- 10) 動植物名の学名は片仮名（イタリック）とする. なお、家畜や作物などで、牛、豚、米、小麦のように漢字の使用が一般化している場合は漢字で表記する.
- 11) 当該論文を発表した研究集会名・年月・使用した研究費などは謝辞・付記等に記載すること.

4. 注

注については、該当箇所(1) 2) 3) を付記し、参考文献の前にまとめて注の内容を記載すること. ワードプロソフトの自動脚注機能は、原稿には用いないこと.

5. 参考文献の配列と表記

<参考文献の配列>

- 1) 本文の末尾（謝辞、注がある場合はその後）に、引用した文献（論文、単行本など）を1つにまとめた文献表を掲げるものとする. 文献の並べ方については、日本語文献（著者名五十音順）、中国語文献、韓国（朝鮮）語文献（著者名の該当当該言語配列順または片仮名表記五十音順）、欧文献（著者名アルファベット順）の順に並べること.
- 2) 同じ著者の文献は発表年の順に並べる. 同じ発表年のものが複数ある場合には、引用順に、a, b, c, …を付して並べること.
- 3) 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には、著者数の少ない順に並べる. 著者数が同じ場合には、第2著者（以下）の五十音順（アルファベット順）に並べること.

<参考文献の表記>

本文中の文献を引用する場合は、必要な箇所、文献の著者名と発表年を示すものとする. 具体的には以下のとおりとする.

[単独著者の場合]

- 上野（2002）によれば、……した例がある（上野，2002）.
- 矢ヶ崎（1980，1983）は、…とされてきた（矢ヶ崎，1980，1983）.
- 椿（2000a，2000b）は、…と指摘している（椿，2000a，2000b）.
- 澤田（2000）や高橋（2000）では、…が明らかにされた（澤田，2000；高橋，2000）.
- 古田（1996）や中村（1998）では、…の研究がある（古田，1996；中村，1998）.
- 太田陽子（1992）や太田弘（2006）では、…である（太田陽子，1992；太田弘，2006）.

[著者2名の場合]

- 山下・高橋（2002）によれば…… ……と指摘されている（山下・高橋，2002）.

[著者3名以上の場合]

- 加賀美ほか（2002）では、…… ……した例がある（加賀美ほか，2002）.
- Jhonston at al.（1994）によれば、… ……という見方もある（Jhonston at al.，1994）.

- 1) 参考文献では、著者名（共著の場合は全著者名を列挙，姓名のどちらかが1字の場合は，全角文字（1マス）空ける），発表年，文献名，雑誌名（和文雑誌は略記しない），巻（通しページの場合は号も），ページ，発行所（書籍の場合）を必ず記載する．文献・雑誌などが2行にわたる場合は，2行目以降は，全角文字（1マス）空けること．
- 2) 欧語の単行本名，欧文雑誌名はイタリックとする．
- 3) 巻と号がある雑誌では，巻ごとに通しページがある場合には，号数を省略する．号数ごとにページが改まる場合には，巻数の後に号数を丸括弧に入れて，3(4)のように書く（数字は半角に統一）．
- 4) 雑誌論文あるいは論文集掲載論文の場合には，論文の最初と最後のページを示す．単行本の場合は総ページ数を示す．
- 5) 論文タイトルに，サブタイトルがある場合は，サブタイトルの前後に，全角「一」をつけること．
- 6) 再版，復刻版などの場合には，原則として実際に引用した文献について記し，必要に応じて初版などに関する情報を付記する．ただし，完全な復刻版の場合で，本文の記述の上でとくに必要であれば，原著について記し，復刻版に関する情報を付記する．
- 7) Web ページに代わる刊行物がなく，やむなくWeb ページを引用する場合には，文献表にWeb ページの作成者名，作成年（表記がある場合），名称，URL，最終閲覧日を記載する．
- 8) 年鑑・統計書・新聞記事・古文書・地図（説明書つきの地図，地図集は除く），私信などの史資料は，参考文献の後に参考資料として表記するか，本文，注，図・表の脚注のいずれかにおいて，編者，発行年次，発行機関，所属先などの書誌情報のうち，必要と思われるものを記す．

<論文>

- 斎藤功・矢ヶ崎典隆（2005）：サリナスバレーにおける野菜栽培とサラダ加工会社の広域的展開．
地理学雑誌，114，pp. 525-548.
- 矢ヶ崎典隆（2005a）：地理学研究者の論文生産年齢．地理学評論，78（8），pp. 1-3.
- 矢ヶ崎典隆（2005b）：日本の地理学研究者によるアメリカ研究—文献目録—．東京学芸大学紀要第3部門社会科学，56，pp. 51-63.
- 矢ヶ崎典隆・二村太郎（2005）：アメリカ大平原ガーデンシティにおける東南アジア系社会とローカルホスト社会．新地理，53(2)，pp. 33-51.

<単行本・報告書>

- 木本力（1984）：『地理教育の展開』大明堂，185p.
- 日本地誌研究所編（1972）：『日本地誌第11巻 長野県・山梨県・静岡県』二宮書店，675p.
- 古田悦造（1996）：『近世魚肥流通の地域的展開』古今書院，418p.
- 水越允治・山下脩二（1985）：『気候学入門』古今書院，200p.

<翻訳本>

- デビット・グリッグ著，山本正三・内山幸久・村山祐司共訳（1986）：『農業地理学入門』原書房，232p. Grigg, D.（1984）：An Introduction to Agricultural. Hutchinson, London.
- C. R. ブライアント, T. R. R. ジョンストン著，山本正三，菊地俊夫，内山幸久，櫻井明久，伊藤貴啓共訳（2007）：『都市近郊地域における農業—その持続性の理論と計画—』．C. R. Bryant & Thomas R. R. Jhonston（2006）：Agriculture in the city's countryside.

< 欧語の文献 >

Yagasaki, N. (2003) : Adaptive strategy of Japanese Immigrants and occupational sequent occupance in the development of fresh produce marketing in Los Angeles. *Geographical Review of Japan*, 76, pp. 894-909.

< インターネットに掲載されている文献 >

農林水産省：市民農園開設状況. http://www.maff.go.jp/nouson/chiiki/simin_noen/joukyou.htm
(最終閲覧日：2006年4月1日)

吉田容子 (2006) : 地理学におけるジェンダー研究—空間に潜むジェンダー関係への着目—. *E-journal GEO*, Vol. 1(0), pp. 22-29. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/ejgeo/> (最終閲覧日：2006年5月8日)

6. 図・表・写真

- 1) 図・表・写真は、できる限り工夫して、必要十分なものに限定すること。学芸地理は21字×37行の2段組を定型とし、図・表・写真の刷り上がりの左右の幅は、1段分または2段分に収まるようにすること（図・表・写真は最大で1ページ大まで可。図表等の折り込みは行わない）。
- 2) 図・表・写真については、「第1表」、「第1図」、「写真1」などに続けて、表題や説明を明記すること。
図・表・写真の表題や説明文はまとめて原稿の末尾につけること。図・表・写真については原稿には挿入せず別紙にまとめる。
- 3) 図表等は、トレーシングペーパーに墨書きし、必要な文字を写植したもの、またはコンピュータで作成した図表等の鮮明なプリントアウトであること。図・表・写真は別紙にまとめ、原稿には挿入しないこと。プリントアウトした原稿には図・表・写真の挿入箇所を朱書きし、掲載時のサイズを明記しておくこと。
- 4) 掲載時の図・表・写真は白黒を原則とする。カラーページなど特別な印刷を必要とする場合には、原稿送付以前に編集委員会へ相談することとし、その経費は著者が負担する。
- 5) 掲載された原稿の図・表・写真やCD-ROM等は、あらかじめ著者より申し出があった場合に限り返却する。

7. 書評

- 1) 原著名、訳者名は原則として姓名とも略さずにフルネームで示すこと。
- 2) 価格は、原則として消費税込みの価格で示すこと。外国書の場合についても、わかる範囲で価格も明記する。
- 3) 書評の見出しについては、以下のとおりとする。
矢ヶ崎典隆・斎藤功・菅野峰明編著：『アメリカ大平原—食糧基地の形成と持続性—』古今書院，2003，219p. 3,500円
P. ジャクソン著，徳久珠雄・吉富亨共訳：『文化地理学の再構築—意味の地図を描く—』玉川大学出版部，1999，268p. 4,500円